

発達障害児・者の自立に必要なとされるスキル獲得の支援状況

Investigation for the actual condition of skill acquisition support
needed for person's independence with developmental disabilities

小島道生
Michio Kojima

要旨

本研究は、発達障害児・者の自立に必要なとされるスキル獲得の支援状況について、特別支援学校及び知的障害関係施設を対象にアンケート調査を実施し、その実態について明らかにすることを目的としている。自立に必要なとされるスキル獲得支援の状況について、42項目から構成される質問紙を作成し、A県の特別支援学校3校の教師87名と九州地方の知的障害関係施設の職員28名について分析した。その結果、自立に関わるスキル獲得支援の取り組み状況には年齢や教育段階などによって、違いが認められる項目も多く存在することが明らかとなった。この背景には、知的発達水準や生活経験、物理的環境要因などが影響していると推測された。そして、一貫して取り組まれていない支援のなかには、自動販売機の利用、移動手段に関する支援など、身近な事柄も含まれており、今後取り組むべき課題であると考えられた。

キーワード：発達障害，自立，スキル

I. 問題と目的

自閉症や知的障害など発達障害のある人達が地域社会で自立して生活していくことが求められている。特別支援学校の教育課程では、自立活動という特別な指導領域が設けられている。自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとされている（文部科学省，2009）。「新しい学習指導要領と今後の特別支援教育」について論考を行った先行研究（大塚，2009）では、特別支援学校における今後の残された課題として3点を指摘しているが、その中の1つとして、今後ますます増加することが予想される、知的障害が軽度な生徒に対する高等部での職業教育の在り方をあげている。つまり、今後より一層、知的障害者の就労に向けた支援の充実が課題とされており、就労も含めた地域社会での自立が重要な課題になっていると言えよう。

一般に、発達障害児・者の自立に関するスキルについては、ソーシャルスキルあるいはライフスキルなどとして取り上げられ、我が国においてもプログラム本が刊行されている。ただ、これら多くの書籍は知的発達に遅れない発達障害児を主な対象としており、知的障害のある児童・生徒を対象とした体系的なプログラムは十分に開発されているとは言い難い。なにより、そもそも特別支援学校において、地域社会で発達障害児が自立していくための具体的なスキルとして、どのような内容を、いつ、どの程度支援しているかという取り組みの状況は十分に明らかになっていない。発達障害児・者への効果的な自立に必要なとされるスキル獲得支援を展開するためには、まずは特別支援学校や知的障害関係施設における具体的取り組み状況について明らかにし、その実態を踏まえた適切な支援方法を模索する必要があると考えられる。

そこで、本研究では発達障害児・者の自立に必要なとされるスキルの支援状況について、特別支援学校及び知的障害関係施設を対象にアンケート調査を実施し、その実態について明らかにすることを目

的とする。

II. 方法

1. 調査対象者

A県における3校の特別支援学校(養護学校)のうち、知的障害児童・生徒を対象とする学級の担任の教師を対象とした。また、九州地方の8県における通所授産施設に対して、各県10施設を対象として、郵送によりアンケート調査の記入を依頼した。調査用紙の記入者は、日頃の施設の支援について熟知している職員に記入を依頼した。

その結果、特別支援(養護学校)教諭では、合計111名から回答があった。そのうち、欠損値を削除した結果、小学部32名、中学部19名、高等部36名の合計87名が分析対象となった。また、通所授産施設は、40名から回答があった。そのうち、欠損値を削除した28名が分析対象となった。

2. 調査項目

発達障害者の自立支援に関する調査項目は、先行研究(日本障害者雇用促進協会 障害者職業総合センター, 2002; 独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター, 2006; 日本発達障害支援システム学会 システム革新研究開発支援センター, 2005)を参考に、42項目設定した。

3. 予備調査

予備調査として、特別支援学校及び知的障害関係施設に勤務する教職員5名に内容的妥当性の検討を適切か否かの2件法により、実施した。そして、不適切と判断された一部の項目について修正を行った。

4. 回答方法

回答は、各項目に関する支援の頻度を5件法によって尋ねた。5件法は、「支援していない」、「2～3ヶ月に1回」、「1ヶ月に1回程度」、「1週間に1～数回程度」、「ほぼ毎日」の順になっていた。

5. 調査時期

調査は、2009年1月～3月にかけて実施された。

6. 分析方法

選択式の回答については、頻度の多い順に5～1点の得点化を行った。各項目ごとに平均値及び標準偏差を算出した。そして、特別支援学校小学部、中学部、高等部、通所授産施設の得点を算出した。

III. 結果

1. 特別支援学校と通所授産施設における各項目の得点及び標準偏差

特別支援学校(小学部、中学部、高等部)と通所授産施設に分けて、各項目の平均値と標準偏差を算出したところ、表1の通りになった。次に、特別支援学校の平均得点上位項目(平均得点が4点以上)及び下位項目(平均得点が2点未満)について算出したところ、表2の通りになった。得点上位項目には、項目17「身近な人に、『おはよう』『こんにちは』など挨拶ができるようになるための支援」など、10項目が該当していた。得点下位項目には、項目27「お金をめぐるトラブルに対して適切に対処できるようになるための支援」など、13項目が該当していた。

また、通所授産施設の平均得点上位項目(平均得点が4点以上)及び下位項目(平均得点が2点未満)について算出したところ、表3の通りになった。得点上位項目には、項目18「よく分からないことは、必要に応じて尋ねることができるようになるための支援」など、5項目が該当していた。その一方、得点下位項目には項目31「外食を一人でできるようになるための支援」など、5項目が該当していた。

表 1 各項目の平均得点及び標準偏差

質問事項	小学部		中学部		高等部		通所授産施設	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1 手洗い、うがいができるようになるための支援	4.94	0.04	4.42	0.24	4.44	0.15	4.54	0.17
2 洗顔、歯磨きができるようになるための支援	4.97	0.03	4.47	0.23	4.25	0.16	4.32	0.22
3 衣類の洗濯ができるようになるための支援	1.25	0.17	1.79	0.27	2.11	0.17	2.39	0.31
4 自分の適切な体重を意識し、管理ができるようになるための支援	1.88	0.24	2.95	0.33	3.39	0.22	3.14	0.25
5 体調不良の時に対処できるようになるための支援	2.31	0.25	3.16	0.29	3.72	0.17	2.96	0.31
6 適切なカロリーについて認識し、食事を調整することができるようになるための支援	1.47	0.20	2.89	0.39	2.44	0.20	2.79	0.30
7 食事のマナーが守れるようになるための支援	4.97	0.03	4.42	0.24	4.33	0.15	3.82	0.26
8 バランスのとれた食事メニューがどうか判断できるようになるための支援	1.66	0.23	2.16	0.29	2.53	0.19	2.54	0.30
9 自分で簡単な料理をすることができるようになるための支援	1.34	0.14	1.95	0.17	2.19	0.12	2.04	0.23
10 トイレが一人で利用できるようになるための支援	4.84	0.13	4.32	0.29	2.69	0.29	3.25	0.34
11 入浴が一人でできるようになるための支援	1.34	0.14	1.58	0.14	1.31	0.11	2.07	0.30
12 髪を整えたり、ひげをそったりできるようになるための支援	1.47	0.20	1.89	0.26	3.41	0.23	3.50	0.29
13 爪を切ることができるようになるための支援	1.19	0.10	1.32	0.17	2.50	0.22	2.61	0.30
14 自分の部屋程度であれば、一人で掃除ができるようになるための支援	2.91	0.29	3.11	0.30	3.69	0.24	3.18	0.32
15 規則正しい生活をするようになるための支援	3.50	0.32	3.84	0.35	3.89	0.18	3.93	0.27
16 状況に応じた適切な衣服を選択し、着ることができるようになるための支援	3.59	0.30	3.89	0.33	3.89	0.20	3.71	0.29
17 身近な人に、「おはよう」「こんにちは」など挨拶ができるようになるための支援	4.91	0.05	4.63	0.23	4.92	0.06	4.54	0.21
18 よく分からないことは、必要に応じて尋ねることができるようになるための支援	4.38	0.23	4.58	0.23	4.75	0.13	4.18	0.24
19 情緒が安定するための支援	4.91	0.05	4.89	0.07	4.64	0.14	4.29	0.23
20 ひらがなやカタカナ、漢字が読めるようになるための支援	4.41	0.18	4.32	0.21	4.36	0.14	2.00	0.25
21 数をかぞえたり、足し算などができるようになるための支援	4.38	0.18	4.21	0.22	4.14	0.16	2.21	0.28
22 ひらがなや簡単な漢字が書けるようになるための支援	4.38	0.18	4.26	0.21	4.31	0.17	2.04	0.25
23 電卓を使うことができるようになるための支援	1.06	0.06	2.16	0.28	2.75	0.19	2.32	0.28
24 時計が正確に理解できるようになるための支援	2.78	0.29	3.63	0.25	3.92	0.15	2.43	0.28
25 お金の価値について理解できるようになるための支援	2.19	0.21	2.95	0.26	3.31	0.18	2.64	0.23
26 お金を計画的に使うことができるようになるための支援	1.25	0.11	2.05	0.24	2.44	0.18	2.43	0.25
27 お金をめぐるトラブルに対して適切に対処できるようになるための支援	1.06	0.06	1.16	0.08	1.69	0.13	2.14	0.24
28 自動販売機を一人で利用することができるようになるための支援	1.59	0.13	1.47	0.14	1.64	0.09	2.11	0.25
29 買い物で一人でできるようになるための支援	2.00	0.16	2.06	0.14	2.08	0.10	2.04	0.19
30 バスや電車で一人で乗れるようになるための支援	2.06	0.22	2.26	0.21	2.17	0.13	1.71	0.18
31 外食を一人でできるようになるための支援	1.41	0.10	1.74	0.16	1.67	0.10	1.61	0.18
32 自分の障害について適切に理解できるような支援	1.34	0.16	1.37	0.13	2.08	0.19	2.00	0.23
33 自分の得意・不得意が理解できるような支援	2.16	0.29	2.95	0.35	2.97	0.23	2.82	0.30
34 自分の自宅住所、電話番号などについて理解できるような支援	1.41	0.18	2.00	0.24	2.28	0.13	1.89	0.20
35 ケガや病気になった時に、適切な対応ができるようになるための支援	2.25	0.23	2.47	0.27	2.47	0.21	2.82	0.26
36 火事や事故の時、119番や110番に電話連絡すればよいことを理解できるような支援	1.00	0.03	1.26	0.10	1.83	0.13	1.93	0.20
37 警察署、消防署、郵便局、病院、市役所などのおよその働きが理解できるような支援	1.16	0.06	1.53	0.11	1.83	0.11	1.61	0.11
38 日常生活で使う水、電気、ガスなどの働きを理解し、大切に使うことができるようになるための支援	2.56	0.31	2.63	0.31	2.81	0.24	3.43	0.29
39 余暇を楽しんで、他者に迷惑をかけずに過ごせるようになるための支援	2.97	0.33	2.89	0.30	3.14	0.18	3.50	0.23
40 働くことの意味を理解し、自分に適した仕事をさがせるようになるための支援	1.41	0.15	2.47	0.28	3.42	0.18	3.29	0.28
41 情報の大切さを知り、必要な情報を得ることができるようになるための支援	1.25	0.12	1.84	0.25	2.72	0.19	2.64	0.30
42 自分の考えや気持ちを表現できるようになるための支援	4.47	0.22	4.95	0.05	4.69	0.09	3.96	0.24

表2 特別支援学校の平均得点上位・下位項目

得点上位項目	平均値	標準偏差
17 身近な人に、「おはよう」「こんにちは」など挨拶ができるようになるための支援	4.85	0.56
19 情緒が安定するための支援	4.79	0.61
42 自分の考えや気持ちを表現できるようになるための支援	4.67	0.87
1 手洗い、うがいができるようになるための支援	4.62	0.82
7 食事のマナーが守れるようになるための支援	4.59	0.81
18 よく分からないことは、必要に応じて尋ねることができるようになるための支援	4.57	1.06
2 洗顔、歯磨きができるようになるための支援	4.56	0.84
20 ひらがなやカタカナ、漢字が読めるようになるための支援	4.37	0.93
22 ひらがなや簡単な漢字が書けるようになるための支援	4.32	0.99
21 数をかぞえたり、足し算などができるようになるための支援	4.24	0.99
得点下位項目	平均値	標準偏差
27 お金をめぐるトラブルに対して適切に対処できるようになるための支援	1.34	0.64
11 入浴が一人でできるようになるための支援	1.38	0.70
36 火事や事故の時、119番や110番に電話連絡すればよいことを理解できるような支援	1.41	0.66
37 警察署、消防署、郵便局、病院、市役所などのおよその働きが理解できるような支援	1.52	0.63
28 自動販売機を一人で利用することができるようになるための支援	1.59	0.64
31 外食を一人でできるようになるための支援	1.59	0.62
32 自分の障害について適切に理解できるような支援	1.66	1.02
3 衣類の洗濯ができるようになるための支援	1.72	1.12
13 爪を切ることができるようになるための支援	1.76	1.18
9 自分で簡単な料理をすることができるようになるための支援	1.83	0.85
34 自分の自宅住所、電話番号などについて理解できるような支援	1.90	1.01
26 お金を計画的に使うことができるようになるための支援	1.92	1.07
41 情報の大切さを知り、必要な情報を得ることができるようになるための支援	1.99	1.20

表3 通所授産施設の平均得点上位・下位項目

得点上位項目	平均値	標準偏差
18 よく分からないことは、必要に応じて尋ねることができるようになるための支援	4.18	1.28
19 情緒が安定するための支援	4.29	1.24
2 洗顔、歯磨きができるようになるための支援	4.32	1.19
1 手洗い、うがいができるようになるための支援	4.54	0.92
17 身近な人に、「おはよう」「こんにちは」など挨拶ができるようになるための支援	4.54	1.10
得点下位項目	平均値	標準偏差
31 外食を一人でできるようになるための支援	1.61	0.96
37 警察署、消防署、郵便局、病院、市役所などのおよその働きが理解できるような支援	1.61	0.57
30 バスや電車に一人で乗れるようになるための支援	1.71	0.98
34 自分の自宅住所、電話番号などについて理解できるような支援	1.89	1.10
36 火事や事故の時、119番や110番に電話連絡すればよいことを理解できるような支援	1.93	1.09

IV. 考察

1. 特別支援学校及び通所授産施設の平均得点上位・下位項目について

特別支援学校において、平均得点が4点以上、つまり1週間に1～数回程度以上、支援を行っていると判断できる得点上位項目について分析した。その結果、挨拶、情緒安定、言語表出、食事のマナー、

生活習慣、そして読み書き計算といった内容が含まれていた。食事のマナーや挨拶など、日常生活に関わる内容と言語・数といったアカデミックスキルの獲得支援が自立に向けて行われていると考えられる。ちなみに、知的障害児の基本的な生活習慣について食事、睡眠、排泄、着衣、清潔の5つの観点から検討した先行研究(上岡・井原,1992)では、知的障害児で最も通過が遅れる項目は、清潔領域であると指摘されている。また、精神年齢よりも生活年齢に影響を受けやすいことも報告されている。本研究からも、手洗い、うがい、洗顔、歯磨きといった内容が頻度の高い項目として示されているが、特別支援学校においても、基本的な生活習慣の確立に関する内容は、継続的な支援が大切であり、なかでも清潔領域については知的障害児の獲得が遅れがちであることを考慮しつつ、効果的な支援を展開していくことが望まれる。

特別支援学校において、平均得点が2点未満、つまり2～3ヶ月に1回も支援を行っていないと判断できる得点下位項目について分析したところ、お金のトラブルの解決、入浴、119番や110番も含めた警察署、消防署などの知識、自動販売機や外食、障害の自己理解、衣服の洗濯、爪を切るなどの身だしなみ、料理、情報など非常に多岐にわたっていた。これらは、学校現場だけでは物理的にも対応が困難と考えられる入浴などがある一方で、金銭価値とトラブルの解決、地域の公的機関などの理解といったような内容が含まれている。地域にある公共機関等の役割の理解と活用といったものは、ある一定の知的発達水準が必要とされる。そのため、全体的には支援があまり行われていない可能性があると推察される。また、自動販売機や外食を一人でできるといった内容も、知的発達水準の影響を受けるが、自動販売機の利用や外食は比較的身近な事柄であり、地域社会で生活の質を高めて生きていくためには、大切なスキルと考えられる。こうした内容の支援の在り方について、検討していくことが求められよう。

次に、通所授産施設において、平均得点が4点以上、つまり1週間に1～数回程度以上、支援を行っている判断できる得点上位項目について分析した。その結果、挨拶・質問などのコミュニケーション力、情緒安定、洗顔・歯磨き、手洗い・うがいといった生活習慣に関する内容が得点上位項目であった。通所授産施設では、挨拶や困った時に尋ねることができるという質問に関する支援が、頻繁に行われていると考えられる。

通所授産施設において、平均得点が2点未満、つまり2～3ヶ月に1回も支援を行っていないと判断できる得点下位項目について分析したところ、外食、119番や110番も含めた警察署、消防署などの知識、自分の自宅住所・電話番号、バスや電車に乗ることなどが含まれていた。これらは、先にも述べたように、一定の知的発達水準が必要とされると考えられる。したがって、対象者にとって、困難と考えられる内容のため、実施されていない可能性がある。なお、近年では、知的障害者が地域で暮らすためのセーフティーネット構築の必要性が主張されている。堀江(2005)は、知的障害者の地域生活を安心して豊かなものにするためにも、被害やトラブルに巻き込まれずに安心して暮らせる仕組みづくりが急務となっていると述べている。知的障害関係施設においては、知的障害者自身のスキル獲得支援と同時に、こうした地域で安心して知的障害者が暮らせるようなネットワーク構築においても大切な役割を担っていると考えられる。

2. 各項目における特別支援学校(小学部・中学部・高等部)と通所授産施設の比較

各項目における特別支援学校(小学部・中学部・高等部)と通所授産施設の比較を行ったところ、主には以下の5点に整理される。①年齢が低い段階で取り組まれている支援(項目2, 7, 10, 19), ②年齢に関係なく、一貫して頻繁に取り組まれている支援(項目1, 17, 18), ③年齢に関係なく、一貫して頻度の少ない支援(28, 31), ④年齢が高くなると、取り組まれている支援(項目3, 4, 6, 8, 9, 12, 13, 23, 25, 26, 32, 34, 36, 37, 40, 41), ⑤通所授産施設よりも、小学部・中学部・高等部において主に取り組まれている支援(項目20, 21, 22)である。

①年齢が低い段階で取り組まれている支援としては、洗顔、歯磨き、トイレなど身辺自立や衛生面

に関する内容が取り組まれており、また情緒の安定も含まれていた。②年齢に関係なく、一貫して頻繁に取り組まれている支援としては、手洗い、うがい、挨拶、さらにはよく分からない事柄について、尋ねることが含まれており、頻度の高い継続的な支援として取り組まれていた。③年齢に関係なく、一貫して頻度の少ない支援としては、自動販売機の利用や外食といった実際の地域の場において取り組まなければならない内容が含まれていた。実際の地域社会の場に出て、支援を行うことは、その場に行くことが難しいといった物理的環境の影響を受けるかもしれない。しかし、自動販売機の利用(項目28)といった、身近な事柄で日々の生活でも利用する可能性のある事柄に対して、一貫して支援の頻度が少ないといった状況は、改善の余地があると考えられよう。④年齢が高くなると、取り組まれている支援としては、衣服の洗濯、健康管理とカロリーを意識した食事、身だしなみ、電卓の使用、公共施設の役割の理解といった内容が含まれていた。⑤通所授産施設よりも、小学部・中学部・高等部において取り組まれている支援としては、読み書き、計算といったアカデミックスキルや情報などが含まれている。これらは、主には学校教育段階で取り組まれている内容であり、通所授産施設では取り組まれていないと言えよう。

以上のことから、質問項目は、すべて自立にかかわるスキル獲得支援に関する内容であるが、支援の取り組み状況には年齢や教育段階などによって、違いが認められる項目も多く存在することが明らかとなった。この背景には、知的発達水準や生活経験、さらには物理的環境要因などが影響していると推測される。ただ、一貫して取り組まれていない支援のなかには、自動販売機の利用、移動手段に関する支援など、身近な事柄も含まれており、今後取り組むべき課題ではないかと考えられた。近年では、知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表」の作成も試みられており、そのなかでは小学部、中学部、高等部における職業的発達段階と職業的発達課題が提案されている(木村, 2007)。本研究で調査した自立スキルにおいても、年齢や教育段階などによる支援状況の共通点と違いが見出されており、今後は自立スキルに関する発達段階を踏まえた発達課題の構築などが求められよう。

文献

- 独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター (2006) 就労移行支援のためのチェックリスト. <http://www.nivr.jeed.or.jp/research/kyouzai/30.html>
- 堀江まゆみ (2005) 地域社会における知的障害のある人のためのセーフティネット構築—地域還元型研究を通して—今後の研究課題—. 発達障害研究, 27 (3), 159-166.
- 木村宣孝 (2007) 特別支援教育とキャリア教育—知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表」作成の試み—. 発達障害研究, 29 (5), 322-330.
- 文部科学省 (2009) 特別支援学校幼稚部教育要綱. 特別支援学校小学部・中学部学習指導要綱. 特別支援学校高等部学習指導要綱.
- 日本発達障害支援システム学会 システム革新研究開発センター (2005) 生活適応支援チェックシート. 発達障害支援システム学研究, 4 (別冊), 11-22.
- 日本障害者雇用促進協会 障害者職業総合センター. (2002) 調査研究報告書No.50 知的障害者の就労の実現のための指導課題に関する研究. <http://www.nivr.jeed.or.jp/research/report/houkoku/houkoku50.html>
- 大塚玲 (2009) 新しい学習指導要領と今後の特別支援教育. 発達障害研究, 31 (2), 116-124.
- 上岡一世・井原栄二 (1992) 精神遅滞児の基本的な生活習慣の指導—発達過程からの一考察—特殊教育研究, 29 (4), 15-20.

付記；本研究は、「財団法人マツダ財団助成」により、実施された。